

第1回 松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」

＜ ターゲット型 就学前・後の子どもの保護者のみなさまと ＞ 対話録概要

と き	令和5年5月27日（土） 午後3時30分から午後5時まで
と ころ	すこやかプラザ 5階 多目的ホール A 室
出 席 者	参加者 11 人、市長ほか関係者 13 人 計 24 人

1 車座集会の概要及び本日の進行スケジュールについて説明（職員）

2 市長のあいさつ

市長として、本市の魅力を高めたい。そのためには、特に、住環境と子育て・教育環境の二つに力を入れる必要があると考えている。具体的にどのように力をいれていくのかは、みなさまの意見を聞いて決めていきたいので、本日の車座集会で、アイデアや知恵、思いをお聞かせいただきたい。

3 参加者自己紹介

4 市長から市の状況・施策紹介

- ・本市の面積は小さいが、1970年、約50年前は市の人口が約55万人で、現在より10万人も人口が多かったため、人が密集していたといえる。徐々に人口が減り現在は約45万人。立地が良いので地方に比べれば減り方はなだらかである。ただ徐々に高齢化が進んでいるため、全国と同じように、若い人が高齢者を支えなければならないという課題はある。本市に生まれた人と亡くなった人の差を見ると、昔と異なり、最近では高齢者で亡くなる人が多く、生まれる人が少ないという状況。社会増減をみると、近年はプラスの値が出ている。社会増減は、本市に入ってくる人と出ていく人を見ており、出ていく人のほうが多いとマイナス、入ってくる人のほうが多いとプラスの値となる。つまり近年は、市外から入ってくる人が増えているといえる。マンションが増えたり、全国的に労働力不足で外国籍住民が増えたりしていること等が理由と考えられる。
- ・ファミリー世帯が増えると、人口が増え、市の財政やサービスが充実すると考えられる。現状は残念ながら、30代から45歳くらいの社会増減はマイナス、15歳から20代の社会増減はプラス。立地の良い本市では、大阪に働きに出る独身世帯が多く入ってきて、結婚すると出ていくという循環ができているといえる。30代から45歳くらいの人に本市に定住してもらえると、本市で子育てをすることになり、街の活性化にもつながると考えられる。
- ・ファミリー世帯がなぜ市外に出ていくのか。その理由を調査すると、治安・マナーの問題、子育て支援、学校教育に不満、今の住宅に不満等がある。このあたりが課題なので力を入れたいが、そのうち、本日は子育て・教育に関して特化してお話をしたい。
- ・市でどのような子育て支援をしているか。経済負担、母体の健康、子どもの健康・教育、市がそれぞれ支援している。限りのある財政の中で何ができるか、市長として日々考えている。
- ・経済負担については、子育てにかかる負担の軽減を何とかしたいという強い思いがある。出産後の支援として、本市では、今年7月から比較的安価に家事ヘルパーを利用できる産前産後ヘルパー派遣を開

始する。また、助産師が訪問してアドバイスをする産後ケアも実施している。そのほか、母子がクリニック等に宿泊して休息できるというような通所・宿泊型の産後ケアも検討している。

- ・出産後の経済支援としては、国が出産育児一時金を増額した。本市では、出産応援給付金を5万円、子育て応援給付金を一人当たり5万円、給付している。
- ・子ども医療費についても、今年7月から就学前児童は所得にかかわらず無償とする等、負担軽減を図っている。就学後は本市の場合は所得に応じて負担があるが、伊丹市は無償等、自治体によって異なる。
- ・待機児童の問題については、全国的には子どもが減ってきているので保育所（園）が余りつつあるが、本市はまだ待機児童が多いところもある。保育士が確保できないという問題や近い将来定員割れする見込み等から、保育所（園）側が乗り気にならず、難しい問題であるが、これからも待機児童を減らす努力をしていく必要がある。
- ・保育料も、世帯年収によって異なる。国の基準もあるが、自治体によって制度が異なり、阪神各市は高めだが、神戸市や明石市は最大月額6万円程度まで、大阪も比較的安価である。保育料をもう少し下げられないかという議論もしている。
- ・小学校からは、児童ホーム・こどもクラブがあるが、子どもを預かることができるのが6時までとなっており、来年度から7時まで延ばそうと検討中であるが、担い手の問題がある。また、子どもの居場所の確保も進めている。令和8年度に向けては、これまで県が担っていた児童相談所についても、本市で作ることになっており、準備を進めている。そのほか、インクルーシブ教育や、学校自体に居場所を作る取組にも力を入れていきたい。
- ・私の持論であるが、日本の子育て・教育への支出はヨーロッパ等に比べて少なく、子どもを産んだだけ苦しくなるという状況があると思っている。市長として、その負担をできる限り下げようようにしたいと思っている。
- ・本市の財政は厳しい面もあるが、最近赤字財政も改善しつつあり、企業の好調等で地価も上がり、昔のように経費カットするだけでなく、これから何に予算を投じるのか考えられるようになってきた。

5 グループワーク

<市長>

3つのグループに分かれていただき、グループごとに意見を出し合い、その後、全体でそれを発表し合う。

トークテーマは、「(1) 尼崎の良いところと困りごと」、「(2) 今、必要な支援とは」の2つで、それぞれ30分程度時間をとっている。それぞれ、前半15分でグループごとに意見出しをし、後半15分を発表の時間とする。

(1) 尼崎の良いところと困りごと

<各グループの発表>

良いところ

- ・子どもの居場所が多く、親がいなくても行く場所があるのは良いこと。
- ・生涯学習プラザ等での子育てイベントも多い。イベントのPRも上手い。

- ・車がなくても生活がしやすい。自転車ですこへでも行くことができる。
- ・市域が小さいが故、距離感が近いのが魅力。
- ・医療費の負担が軽減された。

困りごと

(医療・医療費)

- ・産婦人科が少なく、検診場所が住んでいる場所によっては遠い。小児科も少ない。
- ・伊丹市のように、就学後の医療費も無料化してほしい。

(保育・保育料)

- ・保育料は所得によって月額9万円以上の層もあり、高いと感じる。明石市等他市との差が大きい。
- ・保育所（園）に入ることができるかの不安もある。
- ・保護者が保育士であれば保育所（園）入所が優遇されるのは、保育士の確保のためとはいえ、公平ではない。
- ・優遇対象の保育士も、本市で働く保育士のみに限られており、勤務地が阪神間であれば加点の対象となるようにしてほしい。

(児童ホーム)

- ・いわゆる小1の壁（小学校は保育所（園）とは異なり、早朝保育や延長保育がない）がある。

(教育)

- ・高校の授業料を無償化してほしい。
- ・学校施設の老朽化。新しい学校と古い学校の差が大きい。
- ・教職員の労働環境が良くなく、自身の子どもに向き合う時間が少ない。

(その他子育て支援)

- ・補助金の種類が少ない。
- ・子育てを支援する施設でも、平日しか開いていないところもある。
- ・市役所が暗い。おむつ交換台が小さい。
- ・幼稚園や役所の書類がわかりにくい。
- ・小中学校の入学費用の口座が別である等、事務処理が煩雑なことがある。

(情報発信)

- ・出産後に悩みごとを相談できる場所があるのを知らなかった。もっと積極的にアピールしてほしい。
- ・市報だけでなく、SNS等を活用しイベント情報を発信してほしい。

(まちの魅力・マナー)

- ・自転車のマナーが良くない。交通ルールが守られていないと感じることもある。
- ・乱太郎のようなブランドのPRで本市の魅力をもっと高めてほしい。

(その他)

- ・グラウンドがあるが使用にあたって規制が厳しく実際に使用できない等、施設によっては活用ができていないところもあると感じる。
- ・イベントに参加したくてもバスが混んだり、開催日が被っていたりして、参加をあきらめることもある。

<市長>

- ・産院が少ないという意見が多く出ていた。宿題にさせていただきたい。
- ・市役所が古いという意見があったが、市役所の維持管理には膨大な費用がかかる。市職員の職場である市役所より学校施設や子育て環境の充実に予算を投じたほうが良いという考え方もあるし、市役所は市民も訪れる場所だから整備したほうが良いという考え方もある。みなさまはどう思うか伺いたい。
- ・これまで、学校施設の耐震化やトイレの改修については、国の補助金があるタイミングに合わせて取り組んできたが、日々の修繕費が少なかったため、今後は徐々にそのための予算を確保していきたい。

<参加者の意見>

- ・電球のワット数だけでもあげて明るいイメージを持ってもらうのはどうか。
- ・子育て施策に力を入れるのであれば、小さいおむつ交換台や和式トイレは改善してほしい。

(2) 今、必要な支援とは

<各グループの発表>

(経済的支援)

- ・就学後の医療費の無償化。
- ・出産育児一時金が増額されても、それから先の出費が大きい。継続的支援が必要。
- ・出産後の訪問も、一回だけでなく、二回目以降も無料であると良い。
- ・所得制限を撤廃する。
- ・子育てグッズのリユース会（制服等）で、負担を軽減。
- ・産婦人科を増やすのが難しいなら、妊婦タクシーのクーポンを配ることで、不安を解消。

(人的支援)

- ・医教連携（医療、教育現場、家庭で連携）の担い手を増やす。
- ・病院の中にすこやかプラザのような子どもを見てくれる場所を整える。
- ・共働きで子育てをする世帯も多いと思うが、病児保育が尼崎市には3か所しかない。
- ・ファミサポの協力者を増やす。

(情報支援)

- ・保育所（園）や幼稚園の情報を一括で入手できるような仕組みを作る。

(ファミリー世帯定住支援)

- ・単身世帯のマンションだけでなく、ファミリーが定着しやすい建物を増やす（空き家活用）。
- ・定住者を増やすことが大事だと思う。持ち家に対する支援や、市内の企業で働き、かつ市内に住んでいる世帯に対する支援など、若年層が入ってきやすいような支援があると良い。

<市長>

- ・それぞれの体験からの課題が多く出た。
- ・大きなお金を動かして制度を充実させることも大事だが、保育所（園）や幼稚園の情報の届け方や保健師の訪問回数等、細かいところを充実させると変わることもあるのではないかと思った。

- ・子育てや教育の充実といえば学校施設の整備、教職員の増員、新たな教材の導入等といった環境整備に予算を投じ、そこを利用する人のサービス向上を図るのが昔によくあったやり方だとすると、最近では、給食費が低価になる、医療費が下がる等といった個人給付が多い。個人給付の中でも一律に分配するやり方と所得に応じて再分配するようなやり方もある。どちらが良いという正解はないが、みなさまはどちらが良いと思うか、意見を伺いたい。

〈参加者の意見〉

- ・ある程度所得がある人はそれなりのメリットがあると思うので、介護等と同じように、受けるサービスは同じでも、一定の所得制限があってもよいと思う。
- ・所得制限は撤廃したほうが良いと思う。市民それぞれに提示し選択させる方法をとれば、より平等になる。保育料の一番下と上の差が大きいのに、受けられるサービスは同じなので、もう少しバランスをとるべき。
- ・所得制限は撤廃しても良いと思う。若い世代の共働きが増えているので、世帯の所得は増えていく傾向にある。子どもひとりの養育費も上がっている。所得制限に反対するわけではないが、将来を見据えたときに、一旦、これから家族を作る働き手の若い世代が入ってきやすい環境を作ることが、良いと思う。

6 おわりに

〈市長〉

本日いただいた意見をまとめ、子育て支援を充実するためのこれからの議論の材料にしていきたい。これからもたくさん意見をいただきたい。

以 上